

Q10 授業中に動き回り、気に入らないことがあると教室を出て行きます

【考えられる背景】

- 多動性、衝動性が強いために、じっとしていることが難しかったり、何か気になることがあるとすぐに気をとられるなど、注意集中を持続することが困難
- 本人が課題が分からなかったり、今取り組んでいることに興味が持てなかったりする時間が存在する

【支援への手がかり】

☆ 子どもの実態を正確に把握する

どのくらいの時間なら座っていることができるのか、どんな場面で席を離れることが多いのかを観察し、記録をとってみましょう。どのような時にその行動が起こり、どのような行動をとったのか、またその行動の結果どのようなになったのかを細かく把握することにより、有効な支援を考える手がかりになります。

☆ あらかじめ授業のスケジュールを示し、スモールステップで課題を提示する

その時間に学習する内容を黒板に貼っておくこと等、視覚的援助の方法を有効に使い、見通しを持って行動することができるようにします。子どもの実態に応じて自分で○分まで勉強するなどの目標を決め、守れたらシールをはったりして、評価することも有効な手立てです。

☆ 教材・教室の工夫や、体を動かす活動を取り入れる

絵、写真など視覚的援助を学習の中に取り入れるとともに、席を離れてもできるような体験的な学習を取り入れることも大切です。また、授業の合間に、黒板を消す、プリントを配るなどの体を動かしても良い機会や場面を設けることも有効です。

☆ 落ち着ける場所を確保する

どうしても、教室から飛び出してしまう子どもには、教室から飛び出す前に止め、落ち着ける場所に連れて行き、気持ちが落ち着いたら戻るように話をしていきます。気持ちが不安定になったとき、自分から許可を得て決められた場所に行くことができることを保障することも考えられます。その際、教室からの出方や戻り方を本人と約束していくことが大切です。教職員の協力体制を図りながら、一貫した校内支援体制を確立していきましょう。

(例) 外出許可カード

名前	月	日	()
行き先	時間	担任から	他の先生から